

7日目 7月20日

会 場: 松江市営野球場

第1試合	～3回戦～ (6回コールド)																			
T E A M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	R	H	E		
平 田	0	0	1	0	0	0										1	5	1		
立正大淞南	5	0	3	0	1	2x										11	11	0		
(投手-捕手)																				
・ (平)	田中→広瀬→田中→広瀬→山野奏 - 富岡																			
・ (淞)	持田→小坂 - 谷川																			
(長 打)	(二塁打)						(三塁打)						(本塁打)							
・ (平)	藤井																			
・ (淞)	田中、福島脩												田中							
(審判) [球審]	安達健			〔一塁〕 本田			〔二塁〕 須山			〔三塁〕 飯塚										
(チーム成績)																				
チーム	打	安	点	二	三	本	振	四	犠	盗	残	併	守	備	失	暴	ボ	逸	打	妨
(平)	23	5	1	1	0	0	5	0	3	0	4	0			1	2	0	0	0	0
(淞)	38	11	10	2	0	1	0	10	3	3	10	0			0	0	1	0	0	0

「立正大淞南、11安打11得点で快勝！」

大会7日目松江会場の第1試合は、第1シードの立正大淞南と平田の対戦となった。立正大淞南は持田、平田は田中と両エースの先発で試合が始まった。

試合は初回から立正大淞南が猛攻を仕掛ける。1回裏、3個の四死球で1死満塁とし、5番谷川のセンターへの適時打で2点を先制すると、6番興梠の安打を相手左翼手が処理をもたつく間に1点追加する。続く7番坂川が平田2番手の広瀬からライトへの適時打を放ち、5点のリードを奪う。立正大淞南は3回裏にも、四球と犠打などで1死2・3塁とし2番田中の左中間への適時2塁打で2点を追加すると、4番今田にも適時打が飛び出し1点を追加する。5回裏には6番興梠の適時打で1点を追加した。

対する平田は、3回表に安打と犠打で1死1・3塁とし、2番富岡がスクイズを決め1点を返す。しかし、持田の速球や2番手小坂の打たせて取る投球を前に以降は得点することが出来なかった。立正大淞南は6回裏に2死2塁から2番田中がレフトスタンドに飛び込む2点本塁打を放ち、10点差をつけて6回コールドで準々決勝進出を決めた。

